

平成30年度第2回 佐世保市総合計画審議会 会議要旨

【日 時】 平成31年3月22日(火) 10:00～11:55

【場 所】 佐世保市役所本庁舎5階 庁議室

会 次 第

1. 開会
2. 企画部長挨拶
3. 議事
 - (1) 基本構想（中間素案）について
 - (2) 佐世保市の将来像（将来のイメージ）について
4. 報告事項
 - (1) 基本計画（中間素案）における各部局の政策（社会指標等）について
5. その他
6. 閉会

○出席委員14名 欠席委員 6名

【資料】

- ・資料1 第7次佐世保市総合計画（中間素案）
- ・資料2 前回審議会でもいただいたご意見及び総合計画への反映状況
- ・資料3 第7次佐世保市総合計画の政策・施策一覧表
- ・資料4 佐世保市の将来像（将来のイメージ）（案）
- ・資料5 総合計画の構成対照図
- ・資料6 次期総合計画における官民連携及び基本計画について

会議要旨

1. 開会

【中尾課長】

ただいまから平成30年度第2回佐世保市総合計画審議会を開催する。
まず始めに、企画部長よりご挨拶申し上げます。

2. 企画部長挨拶

【中島企画部長】

さて、前回の審議会においては、「基本構想」や、各分野に分かれていただき「各部局の社会指標」について、それぞれ委員の皆様からご意見をいただきました。

そして、それらのご意見を参考にしながら作成した計画を中間素案として、11月及び先月に開催された「総合計画調査特別委員会」の議題として挙げさせていただいた結果、皆様のお手元に配布している資料1の「中間素案」として今回まとめあげることができた。委員の皆様のご尽力に対し、厚く御礼申し上げます。

本日の審議会の趣旨は3点ある。

1点目は、先程申し上げたとおり、当審議会でもご審議いただいていた「基本構想（中間素案）」がまとまったことにつき、ご確認をお願いするものである。

前回の審議会でも、委員の皆様から様々なご意見をいただきました。それらを庁内で検討し、それぞれ計画内に反映させているので、ご説明差し上げる。お手元に配布している資料2において、これらを表にまとめている。

2点目以降は、基本構想に掲げる4つの都市像、「しごと」・「ひと」・「まち」・「くらし」の各分野に分かれてご意見をいただきたい。

まず、「佐世保市の将来像（将来のイメージ）」、いわゆる「市のキャッチフレーズ」についてである。

キャッチフレーズについては、本審議会の委員を始め、庁内でも意見を募集し、21件のご意見をいただきました。これらは資料4にまとめている。

また、これらのご意見を踏まえ、事務局（案）として作成したものを3件、同資料にも掲載している。

資料4を参考にしながら、「市のキャッチフレーズ」について、ご意見をいただきたい。

3点目は、基本計画（中間素案）における各部局の政策（社会指標等）についてである。

本審議会や「総合計画調査特別委員会」からご意見をいただきながら、庁内でも各部局の社会指標（社会の状態の好転を目指すターゲット）について、検討を重ねてきた。これが「基本計画（中間素案）」にまとまったので、ご確認いただくものである。

総合計画は、本市の今後8年間の方向性を示す重要な計画となる。各委員からは、忌憚のないご意見をいただきたい。

審議会の議事等については、この後、事務局よりご説明する。

【中尾課長】

本日の会議については、委員5名が所用により欠席されていることをお知らせする。

なお、本会議の議事録については、個人情報等を除いて、基本的には市のホームページ等で公表させていただくので、ご了承いただきたい。

ここからの議事進行は、審議会条例の第5条第3項の規定に基づき、木村会長の方に一任する。

3. 議事

4. 報告事項

(1) 基本構想（中間素案）について

【木村会長】

それでは、規定に従って、議事を進行する。

議事(1)「基本構想（中間素案）」について、事務局から説明をお願いしたい。

【池口主幹】

資料説明（資料1 説明）

資料説明（資料2 説明）

【木村会長】

第7次佐世保市総合計画（中間素案）について、前回の審議会でもいただいたご意見の反映状況を中心にご説明いただいた。ただいまの説明に関して、ご不明な点、ご質問がある方は、挙手の上、ご発言いただきたい。

前回の意見は反映されているとみなしてよろしいか。

【西岡委員】

個々の意見についてはきちんと反映されていることが、今のご説明で良く分かった。ただ、総合計画なので、相互の施策が有機的に結びついて、一つのまちの姿をビジョンとして謳いあげているということが大事だと思うが、それが上手くいっているのか。まだ縦割りなのではないか。

例えば、人口は減っていく、産業の個々のビジョンは、人材不足や知名度のアップも難しく厳しい中で、観光データだけが右肩上がり伸びている。これをまちの将来像の中核に位置付けようということで、その足元を支えるような道路基盤の整備や、様々な地場製品のアピールなどをやろうとしているということは、個々にはあるが、それに全てのベクトルが向いているのか。

観光に訪れるお客様が一番多いのはハウステンボスで、圧倒的である。全国区で佐世保の観光と言ってでてくるのが、まずハウステンボス。もちろん九十九島と言われれば、それもあつたなど気付くが、地元の人が九十九島と思っているほど、東京・福岡の人間が九十九島を第一に浮かべるかということ、ああいうものは

全国どこにでもあるというのが一般的な印象である。

ハウステンボスは、全国のどこにもない、日本で第三位の集客力を誇る観光施設だが、その打ち出しが非常に弱い。民間企業の施設なので遠慮しているような気がする。47ページの中ほど、九十九島の後にハウステンボスが出てくるが、むしろそれ以外のものがかぎ括弧で強調されている。写真も九十九島の昼間と夕方方の情景だけで、ハウステンボスはどこにも出てこない。

社会が認識している佐世保市の観光と、佐世保市が総合計画の中で打ち出そうとしている観光に、かなり乖離がある。圧倒的にハウステンボス、その他大勢と見られているはずで、経済に及ぼしている実質的な影響もそうになっているはずなのに、ここまで弱く書かないといけないのかという点は疑問である。

もう一つ、観光政策と切っても切り離せないのが、景観である。超一級の観光地に行くと、中心となる観光施設とその周辺では、看板を出さない、空き家を徹底的に管理するなどの景観行政が実施されている。中には、歴史的伝統地区での民間の商業施設の赤や黄色のカラーリングを、全て地域の伝統色に切り替えているところもある。佐世保市ではそのようなことをやろうとしているのか。

景観については、85ページに「景観形成の推進」という項目があるが、佐世保らしさを輝かせるための計画であるにもかかわらず、全国どこにでもあるようなことが普通に書いてあるだけで、まるで景観の教科書の「はじめに」のところのような一般的な文章である。いったい何をやるのか、また、佐世保の将来のためにしなければならないことは明確にあるのに、それをきちんと謳っていない。実際、ハウステンボスの周辺に行っても、全国的にはありえないような派手な看板や空き家、不適切な広告の数々が放置されているのを非常に悲しく思う。それを改めていくという方向性をここに出さないといけない。

観光行政を推進している人達と議論をしたことがある。初代観光庁長官に大学に来てもらって佐世保市内を案内したときに、「これから佐世保は何で生きてゆくのか？」と言われ、「観光が柱です」と答えたところ、「何があるのか？」と聞かれたので、「九十九島、ハウステンボス・・・」と列挙したところ、「それに向けて何をやっているのか？」と尋ねられた。そして、「ありきたりの一級品ではもう世界から人は呼べない。超一級を育てなければ駄目だ」と言い残して帰られた。

よいものはたくさんあるが、それを世界の超一級品として輝かせるように、みんなで取り組むという方向性が謳えないかと思った。少し残念である。

【木村会長】

ただいまのご意見について、事務局からコメントはあるか。

【事務局】

計画が縦割りに見えるというご意見については、庁内や市民、議会からも同様のご意見があった。計画の構成を一部局につき一政策としている関係で、どうしても縦割りに見えてしまっている。基本構想の31ページに、我々職員の持つ共

通概念として、5つの考え方を挙げている。下の方の「多様な市民ニーズへの対応」として、「市民第一のもと迅速・柔軟な横断的取組」を置き、計画書の149ページでは「連携する政策・施策」を置いて、横の連携に意識を向けながら内容を記載したいと思っている。

ハウステンボスについての書き込みが薄いというご意見については、今回、官民連携という視点の中で、民間の役割としてはハウステンボスについても記載しているが、行政の方向性の中にそこが見られないというご意見だと思うので、部局と検討したい。

景観については、85ページの「居住誘導の推進」の施策の中で、方向性として書いているが、建築物や屋外広告物等の景観の誘導を図るという視点が強く、人を呼び込むという視点が抜けているというご指摘かと思う。こちらについても部局と調整したい。

【木村会長】

他はいかがか。

【橋山委員】

これを見ると、非常にコンパクトに、精査されて記述されているが、教科書的な、本当に管内でも、現場のセクションでも、方向性については立派である。

ただ、目を外に向けると、「佐世保としての魅力はどこにあるのか」というような声が、市民から聞かれる。今後、佐世保の将来像の中に、ビジョンとして入れていただくとと思うが、例えば、この中に、人、まち、モノ、仕事とあるが、佐世保には「モノ」がない。

古い言葉だが「意識が存在を規定するのではなく、存在が意識を規定する」、「モノがあれば人間の心は豊かになる」ということを言った人もいる。モノがあって初めて佐世保が豊かになる。また、市民の認識の変化がこの中には盛り込まれていない。若干寂しい思いはするが、文章的には、綺麗にコンパクトにまとまっている。しかし、グローバルな視点でいくと、もう少し局所的でなく、大きな視点で、もう少し広げて考えていただければと言うのが、一つの気持ちであり、要望である。

私は町内会代表だが、町内会でも、やはりそれぞれが夢を持って、佐世保に定住するには何が必要なのか、何に佐世保で定住する価値があるのかを考えている。佐世保には進学校が3校あるが、その中でも優秀な人は外へ出ていき、佐世保に帰って来ない。産業のこともあるが、やはり家族と一緒に佐世保で暮らした方がよいのではないかという単純な発想が出てくるのが大切だと思う。

これだけを見ると、そのような魅力のあるものが何もない。ただ、それぞれのセクションで、精査された綺麗な今後の方向性を整理していこうということが随所にでている。それはそれでよいとして、今後佐世保の中でモノをどう生かしていくのか、モノがあつてこそ、それぞれの思いがある。存在があつて意識を規定すると思う。そういうところは是非検討していただきたいと思う。

【木村会長】

佐世保ならではの魅力的なモノについての記述がやや不足しているのではないかとということについては、ご検討いただくということによろしいか。

時間も限られているので、他にご意見なければ集約をさせていただきたい。

【川原委員】

部局ごとに作っているプランが沢山あると思うが、それぞれの刷り合わせも大体されており、且つふわっと書かれているので、間違いを指摘するような箇所はないが、よく見ると、具体的な数値目標のあるところと、ほとんどないところがある。数値目標の有無の違いは何か。

【事務局】

施策に数値目標を入れていくことにしているが、観光等、まだ検討中のところがあり、全てに入れられていない。政策については、上昇・維持・下降という方向性を矢印で記載していきたいと考えている。

行政の取組については、施策以下になるので、ここに具体的な数値目標を入れていきたいと思っている。

【池田委員】

資料6では、政策は部局ごと、施策は課ごとというご説明があったが、今までの流れからすると、縦割りに戻った印象を受ける。

私は縦割りが悪いというよりも、縦割りによって生じる弊害を、いかに無くすかが大切だと思っている。縦割りによって生まれるものは、同じようなことを別々の部局がやっていて、どれも中途半端になるなど、情報共有できないことによる効率の悪さである。そのようなことを避けるためには、部局や課を市民の暮らしに合わせて柔軟に組み替えるような、政策や施策、部署に合わせて市民の暮らしをつくるのではなく、市民の暮らしに適切に対応した部署を作っていくというようなベクトルを明確にしていけるとよいのではないか。

特に今回、基本理念の中に、「挑戦」「創造」「多様性」を謳っているので、それが言葉だけでなく、市民の暮らしから見た市役所のあり方や仕組みづくりに繋がっていくとよいと思う。

【木村会長】

事務局からコメントはあるか。

【事務局】

横の連携が非常に大事だと思っている。組織のあり方にも関係するが、おっしゃるとおり、暮らしから見た組織づくりは、非常に重要な視点だと思っている。

今回の計画は、部単位で指標を持ち、これを共通の価値として、部局が一つに

なって目指していくという視点に重きを置いて、作り込みを行ってきた。縦割りの弊害については、引き続き検討していきたいが、今回の計画の作り方については、このような形で進めていきたいと思っている。

【木村会長】

それでは、時間に限りもあるので、以上とさせていただきます。

議題(1)「基本構想(中間素案)」について、ご意見をまとめさせていただくと、概ね、前回の審議会で出された意見は的確に反映されているという評価をいただいた。

西岡委員からは、個々の政策の有機的連携が見えない、また、個々の政策において、世間の佐世保に対する評価と乖離があり、佐世保ならではの魅力が必ずしも打ち出されていないのではないかというご指摘があった。

橋山委員からは、佐世保ならではの魅力的なモノの創出に関する記述が欠けているというご指摘があった。

また、お二方共通のご意見として、やや教科書的な記述に偏っているのではないかというご意見があった。

川原委員からは、部局ごとのプランにおける数値的な目標の有無の基準についてのご意見があったが、これについては、今後具体的な施策の検討の中で対応するということであった。

関連して、池田委員からは、市民の暮らしの方から佐世保市の部局、仕組みのあり方を考慮するべきであって、現在の部局のあり方、組織の仕組みから市民の暮らしを規定するという方向性にやや偏っているのではないかというご意見があった。

いずれも、難しいご指摘ではあるが、重要な論点を指摘していただいていると思うので、今後事務局では、ご意見を踏まえて、庁内でご検討いただくということとして、これを審議会の意見としたいと思う。

(2) 佐世保市の将来像(将来のイメージ)について

【木村会長】

それでは、続きまして議題(2)「佐世保市の将来像(将来のイメージ)について」及び報告事項(1)「基本計画(中間素案)における各部局の政策(社会指標等)について」に移りたいと思う。

前回の審議会においても、基本構想に掲げる4つの都市像、「しごと」・「ひと」・「まち」・「くらし」の各分野のグループに分かれて、それぞれ意見交換を行っていただいた。

先程、事務局のほうから説明があったが、今回も分野ごとに分かれて、「佐世保市の将来像(将来のイメージ)」や「各部局の政策(社会指標等)」について、意見交換を行っていただきたいと思う。

そして、各グループで分野ごとの意見を取りまとめていただき、グループの代

表者の方から発表していただきたいと思う。

グループについては、お手元に配布されている座席表に記載してある。

時間を30分程度とるので、分野ごとにご意見のとりまとめをお願いしたい。

進め方等については、各グループに配置された事務局の職員から説明させていただく。

それでは、後方に座席を用意しているので、移動の上、意見交換をお願いしたい。

なお、11時30分になったら、自席に戻っていただきたい。

それでは、よろしくをお願いしたい。

(意見交換)

【木村会長】

それでは、意見交換に移りたい。

まず、グループでとりまとめた意見について伺いたい。はじめに「しごと」（経済分野）からお願いしたい。

【馬郡委員】

政策、施策のところで若干意見が出た。観光・商工の政策としては、ミカン農家を含めた一次産業で人手不足があるため、人材の確保をしていただきたい。これは外国人労働者も含めてである。

観光については、佐世保に来る観光客のうち、相当の人がハウステンボスに行くということだが、佐世保市民がハウステンボスに行く機会は少なく、市外では非常に有名なのに、我々の意識にギャップがあるのではないかという意見が出た。

私からは、利益が上がった企業が多ければ景気がよいという話にはならないわけで、そのためにどうすればよいかという施策も、もう少し入れていただければよいと申し上げた。

キャッチフレーズは、事務局案の2番目が適当であるということになった。「キラっ都」は我々に非常に周知されているのでよいが、「彩都」については一考できないか、「西都」や「西」ではどうか、と宿題を残した状態となった。

【木村会長】

次に、「ひと」（人材分野）について、お願いしたい。

【田中委員】

キャッチフレーズについては、2番をベースに検討した。「“キラっ都” SASEBO」は市民に定着しているので、そこに何を付けるかということである。以前、「海風 薫る」を付けることを検討したが、具体的な佐世保の魅力は、世界に開けた港があるということ、海があるということ、その海から風通しのよい風が吹いているということであり、具体的な佐世保の良さを表す「海風 薫る “キラっ都”

SASEBO」がよいということになった。

その後ろにも、あれこれ盛り込みたいところではあるが、キャッチフレーズなので、シンプルでなるべく短い方がよい。副題を付けたい場合は付けてもよい、という自由度を残すようなキャッチフレーズでよいのではないかという形でまとまった。

【木村会長】

次に、「まち」（都市基盤分野）について、お願いしたい。

【西岡委員】

キャッチコピーについて、2番がよいというのは皆さんと同じである。むしろ、これだけ定着している「“キラっ都” SASEBO」を変える理由がないという意見が強かった。「海風 薫る」は佐世保・小値賀の観光圏のキャッチコピーにも使われているので、これを使うのは今後この圏域を観光で輝かせようというまちづくりの将来像も見えていてよいということであった。

サブタイトルについて、特に「彩都」については、長崎の人間は夢彩都を想像し、関東の人は埼玉県のことかと思ってしまうのではないか。「世界へはばたく」については、今後、この地域は国内観光だけではなく世界の観光で輝くので、そのような意味では「世界へはばたく」は入れてもよい。入れるなら「海風 薫り 世界へはばたく“キラっ都” SASEBO」がよいのではないかということになった。

また、議論の過程では、これからの方向性として、世界観光で輝く佐世保にしていくという視点からすると、IRに全く触れられていないのが気になるという指摘もあった。IRの業者がこの資料を見たら、佐世保は候補から外れるのではないか。「まちはIRの事を考えていない」と思われてしまうのではないか。

【木村会長】

最後に、「くらし」（市民生活分野）について、よろしく申し上げます。

【落合委員】

市民生活分野では、そもそもキャッチフレーズとは何かということからご指導をいただいた。キャッチフレーズの原点は、言葉の意味である。そしてリズム性（響き）、あとは感覚性を優しい言葉の中に含め、広がりを持たせることが必要であり、抽象的では駄目だということを教えていただいた。未来に向けて夢を描くにふさわしい言葉を使わなくてはいけない。人間は夢を持たなければならず、それには夢をつくるためのキャッチフレーズを打ち出すべきということである。

子どもは無垢で白紙であり、よいものを与える必要があるから、このキャッチフレーズの中から夢が広がるようなものを考える必要があるのではないか。その中で佐世保は海が基本なので、「海」を入れなくてはいけないという意見があった。それに対して、佐世保には海だけでなく他のものもあるという意見もあったが、大体の方は2番がよいのではないかという傾向であった。

3番目の「トランスフォーム中」についても賛成意見があったが、「トランスフォーム中です」には問題があるのではないかということで、「安・美・謝S (ambitious)」の前に「夢あるまち」を入れた「夢あるまち 安・美・謝S (ambitious)」で、将来的にはこのような展望でやってもよいのではないかということであった。

資料3についての討論はあまりできなかったが、目標としてのキャッチフレーズは必要だが、具体的な取組を考える必要もあるのではないかという意見があった。それに対しては市の職員の方からの説明をいただいたところである。

【木村会長】

時間も迫っているので、ご意見を集約させていただく。

「しごと」（経済分野）については、観光・商工に関して、ミカン農家を含む一次産業分野での人手不足について、言及されていないという点に、疑義が呈せられたということ。また、観光客はハウステンボスに来るが、市民がハウステンボスに行く機会がないので、ハウステンボスに対する意識が希薄なのではないかという問題意識があり、先ほども議論になったが、佐世保市民の観光資源に対する評価と、佐世保以外の人たちの評価との間に乖離があるのではないかというご意見であったと思う。そうしたご意見を踏まえて、キャッチフレーズとしては、2番の「海風 薫る “キラっ都” SASEBO」がよいということであった。

「ひと」（人材分野）では、キャッチフレーズについての議論が中心で、2番の「“キラっ都” SASEBO」がよいということであった。「海風 薫る」を付けることで、世界に開かれた港が強く打ち出せるのではないかということ、また、国際都市性もアピールできるということであったと思う。キャッチフレーズは短く、インパクトを与えるものである必要があるということから、副題についてはこだわらずに、必要であれば各分野で副題を自由に付けるということで、「海風 薫る “キラっ都” SASEBO」を頭につけるという方向性で統一してはどうかというご意見であった。

「まち」（都市基盤分野）では、小値賀などで「海風 薫る」というフレーズを使って観光PRをしていることもあり、2番が佐世保の魅力を打ち出すのに一番ふさわしいのではないかということであった。ただ、「世界へはばたく」も佐世保の将来像を描く上でPR性が高いということで、「海風 薫り 世界へはばたく “キラっ都” SASEBO」ではどうかという具体的な提案があった。

また、IRについて全く言及されていないということでは、今後のIR誘致に関して佐世保市のやる気のなさを疑われるのではないかというご意見もあった。

「くらし」（市民生活分野）では、キャッチフレーズはあくまでも市民に向けたもので、将来を担う子ども達が夢をつくるためのキャッチフレーズでなければならぬということであった。そうした視点から勘案して、2番と3番で多少意見が割れたということだが、大勢は2番がよいという意見であった。「トランスフォーム中です」には問題があるが「夢あるまち 安・美・謝S (ambitious) SASEBO」ということで、それに向かって変身中であるというアピールができれば、これも魅力的なキャッチフレーズになり得るのではないかというご提言であったかと思

う。その上で、キャッチフレーズを決めるのもよいが、それを具体化する取組について、もう少し記載をしていただければというご意見もあった。

各分野からのご意見はそういった形であったかと思うがよろしいか。

意見交換の結果を踏まえ、事務局は、庁内での検討を継続していただきたい。議題については以上だが、事務局から連絡事項等があればお願いしたい。

5. その他

【中尾課長】

本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。本日いただいたご意見について、今後、庁内で協議・調整しながら、総合計画全体としてとりまとめを行っていく。

先ほどのIRの件については、資料の158ページをお開きいただきたい。ご指摘のとおり、IRについてはほとんど記載がなく、158ページの真ん中、「分野横断的な戦略的プロジェクトの企画立案」の3行目に少し書いてあるぐらいである。

その理由は、本市がまだ選定されていないからである。国のスケジュールでは、平成32年度、再来年度に、全国で3ヶ所、どこに置くかを選定するという形になっている。IRはインパクトがとても大きいので、選定されれば、その段階で、総合計画の中に、IRを前提としたまちづくりをどうするかを含めていく必要があると考えている。

選定された場合のスケジュールとしては、どんなに早くても開業が2024年、2025年以降だが、総合計画の計画期間は2020年からスタートして2024年度までとなっており、もし選定されたとしても、前期計画が終わった後に開業することになる。選定されたことをもって、次の計画にIRを前提としたまちづくりを盛り込むべきではないかということで、現段階におけるボリュームは控えめな形にさせていただいている。

長崎県、佐世保市として、IRにどう対応するかは、今年の夏以降に、法律上の手続きである実施方針を公表することにしており、そこで私たちのやる気、法定手続きに従った周知・広報、そして提案を受けるといった手続きに入っていきたい。それを踏まえて、その手続きの後にあるまちづくりは、次の総合計画の中で整理していければよいと思っている。

この総合計画の中で2点ほど、確定していないものがある。一つめは、組織の問題である。今回は組織と政策を一致させるというコンセプトの中で取りまとめてきているが、池田委員からご指摘があったように、もう少し検討を深める必要があると考えている。市長選もあり、選挙後の市長の意見も反映させた中で取りまとめていきたいと思うので、この部分では変更が生じる可能性があるということをご了承いただきたい。内容そのものは大きく変わらず、組み方が変わっていくことになると考えている。

もう1点、変更が生じる要素としては、次期総合計画が、地方創生総合戦略を兼ねることになっている点である。地方創生総合戦略の策定にあたっては、地方創

生推進協議会が別にあり、そちらの意見も反映させた形で、最終的に総合計画がまとまっていく。

現段階で変更が生じる要素があるところは、以上の2点であり、木村会長、馬郡副会長のご協力のもと、調整させていただきたいと考えているため、ご了解いただきたい。

最後に、策定スケジュールについては、今回取りまとめが終わったため、内容の確認としては最終ということにしたいが、先ほども申し上げたように、市長選があり、選挙後の市長の意向を踏まえた場合に少し内容が変わる可能性もあるため、その場合は再度この会を開催させていただきたい。ただし、現市長がそのまま続投する場合は、ほぼ変わらない形になるかと思われるので、その場合は会長・副会長と調整の上、先ほど変更した要素を踏まえて、答申をしていただくという形にさせていただきたい。

【木村会長】

ただいま事務局から、本審議会が行う答申について説明があった。

今回までの各委員のご意見を踏まえ、私と馬郡副会長が、事務局と協力の上、答申内容を整理・作成し、5月から6月までを目途に新市長に対し、答申を行うというものである。

私としても、馬郡副会長及び事務局と互いに協力し、今回までのみなさんの様々なご意見を汲み取りながら、答申へ適切に反映させていきたいと考えているところだが、委員の皆様はいかがか。

(異議なし)

【木村会長】

それでは、今回までの各委員のご意見を踏まえ、私と馬郡副会長が、事務局と協力の上、答申内容を整理・作成し、5月から6月までを目途に新市長に対し、答申を行うこととする。

事務局からほかに何かあれば、お願いしたい。

【中島企画部長】

これまで長い検討をいただき、概ね内容が固まったと思っている。本日は、特に今までの内容を踏まえてご確認いただいたが、まだ新たな視点、我々に足りなかった視点をご指摘いただいたと思っている。

総合計画として、全体的にはこれまでを総括しながら、いわゆる弱みを克服して強みを伸ばしていくという基本的な考え方であったが、本日私が気付いたのが、それでは駄目なのだということである。超一級という言葉をいただいたが、更にもその上を目指して行くべきだということ、我々の視点にはそこが欠けていたという反省があった。

一方、市民の意向、色んなニーズを踏まえて、市民との乖離はなるべく少なくしようと思っており、この計画もその考え方に沿って、それぞれの部局が検討してきたと思っているが、それでもやはり視点が少しずれているという指摘があった。これは非常に反省点でもあるので、今後修正を行う中で、十分その部分について検討し、進めさせていただければと思っている。

いずれにしても、冒頭にも申し上げたとおり、いよいよ新しい元号、新しい時代に入っていく、佐世保も新しい時代に入っていくが、なかなか将来を見渡せない、不安な情勢だということについては、行政としてもしっかり皆様のご意見をいただきながら、それに先手を切って進めさせていただきたい。そのような意味でも、この総合計画審議会の委員の皆様のご意見は、大変貴重なものであるので、今後とも市政発展のために、ご協力いただければと思っている。

長い間、ありがとうございました。お疲れ様でございました。

6. 閉会

【木村会長】

それでは、これで今回の審議会を閉会する。

委員の皆様方には、これまでのご尽力につき、私からも改めて感謝申し上げます。

以 上